

# 定義のない 議論と ソース ロンダリング

国士学アナリスト  
大石久和  
Hisakazu Ohishi

## ソースロンダリング

経済評論家の三橋貴明氏は、「ソースロンダリング」ということがあるという。それは、「信憑性の薄い噂などをあたかも真実であるかのように見せかけるために、社会的に信用あるメディアや人物を紹介することで『情報の洗浄』を図り、信憑性を高める方法」だというのである。彼が例示するのは、「日本に対してIMFが消費税率を上げるといっている」というように、権威や第三者を活用し客観的な装いをつけて、自らの主張を押しそうとするといった類いである。三橋氏は、IMFにはわが国の財務省からの出向者が多いと言う。

ソースロンダリングの典型のような話がある。ネット版日経ビジネス六・二〇号の、池上彰氏の「学問のススめ」というコーナーに、「作りかけの高速道はつなぐべき？放っておく？」との対談があった。ここに登場したのが、星岳雄氏である。スタンフォード大学教授にして、東大卒、MITで経済学博士という絢爛たる肩書きである。

その彼と池上氏が対談しているのだが、これがいかに怪しいのだ。たとえば、星氏はわが国では何度も景気刺激策として財政出動してき

## 定義のない議論

わが国では、定義をはっきりさせないままの用語使いが横行するという不思議なことがまかり通っている。たとえば、「ばらまきはやめ、限りある財源で必要なインフラを整え、維持する。こんな公共事業の考え方を示す候補者に一票を投じたい。無駄な事業をやめれば、その分、被災地の復興事業にお金を投じることが出来る」という記事があった。

これは、参議院選挙前の七月九日の、「『コンクリ』推進か選別か」と題する朝日新聞の経済部記者のコメントである。きわめてまっとうな意見で、反論するところはまったくない。「お説ごもっともでございます」という台詞以外はあり得ない。

けれども、このコメントには大問題があるのだ。何より肝心な「何がばらまきなのか」「必要なインフラとは何なのか」「無駄な事業とは何を指すのか」についての定義が何も示されていないのだ。ばらまきの定義を示さずにばらまきをやめると主張することは、あらためて言うまでもなく、まったく意味をなさないことなのだ。したがって、この記者のコメントは、「何も言っていない」「何も書いていない」に等しい。本

たが、「景気は回復せず、政府は巨額の債務に苦しんでいるのが現状です」と、わが国の至る所で繰り返されている珍説を述べている。本コラムでも何度も説明しているように、公共事業のための建設国債はほとんど増えていないのに、赤字特例公債が急増して建設公債の倍近くに膨らんでいるのだ。

また、池上氏は「地方には、建設が中止された高速道路があります。完成されれば全部繋がるはずだったものが、途切れ途切れになったままになっています。紀伊半島を一周する道路はその一例です」と言っているが、事実誤認も甚だしい。中止などすれば、地元は大騒ぎになって収拾がつかなくなってしまうことだろう。予算が伸びず整備が遅れてはいるが、ここでは中止などしていないし、したこともない。

したがって、池上氏の「なぜ、建設が中止されたか。それが完成しても十分な経済効果は得られないと小泉改革で判断されたからです」というのも、そのような判断はなかったのだから、事実の裏付けのない彼の勝手な想像でしかない。これを受けて、星氏は「政府が財政出動することは、民間需要をクラウドディングアウトし、また役に立たないものをつくることになりま

文のリード文にも、「財政にはゆとりがない。ばらまきを復活させるのか、暮らしに必要な公共事業を選んでいくのか」と書いているが、これも同様に何の意味もない前文だ。使用する用語を定義していないから活字は紙面を埋めているけれども、内容はゼロだしメッセージ性も何もない。

厳密に概念規定された用語を用いなければ、意味ある議論などできないのは当然なのだ。幼稚園や小学校低学年の先生が、「皆さん、してはいけないことは、してはいけませんよ」と呼びかけてこれが教育だと言うのは、誰にでもわかるはなはだしい勘違いだが、先の記事はこれと全く変わらない。「してはいけないこと」とは何で、それはなぜなのかと示さなければ、発言そのものに意味がないのである。

そもそも財政にゆとりがないのは、「経済成長していないために税収が伸びない一方で、高齢化に伴う社会保障費が急増している」からなのであって、ここで考えなければならぬのは、社会保障費の支出構造を見直すとともに、「いかにして経済を成長させるのか」ということになければならないのだ。「『コンクリ』推進か選別か」という構え自体がまるでピントを外しているということなのだ。

いたため民間に資金が有り余っているデフレ経済のもとで、クラウドディングアウトなど起こるはずがないが、ここで、「スタンフォード大学教授が言っておられるのだ、この紋所が見えないのか」とソースロンダリングを効かせようという狙いが明白だ。しかし、こんなことを言う氏は、日本の経済状況を理解できているのだろうか。彼は続けて、「ミッシングリンクをつないでいる場合ではないですよ」と述べるが、あの地震時に命の道と言われた三陸縦貫道をつなぐことも「そんな場合ではない」のか。

つながる寸前の道路であっても、つながない方がいい場合があるという主張など、道路の反対論にも随分遭遇してきたが、いままで寡聞にして聞いたことがない。経済学者は公共事業を文字通りにフォローでしか見ることができず、ストックとしての理解ができていないと考えているが、ここまでひどい愚説には出会ったことがない。

輸出依存度が世界一八〇カ国中、一七〇番目以降という内需中心国なのに、民間が設備投資せずデフレの淵に沈んでいるこの国で、経済を牽引するために何をやればよいというのだろうか。不思議な大学教授を見つけてきたものだと心底感心している。